

## その七



### 嶺村法子

私の勤務地である中央区は、日本橋地区・京橋地区・月島地区の三つの地域に分かれており、全部で十四の幼稚園があります。私たち幼稚園教諭は、平成十三年度より区の職員になったこともあり、特に希望しない限り、区内の三地域を異動しています。

同じ区立幼稚園とはいえ、地域ごとの特徴も異なり、異動は、それまで当たり前と思って行ってきたことを問い直したり、新しいメンバーで新たな試みをしたりできるチャンスでもあります。

また、前任園との交流で、勝手知ったる実家に帰るような気分が味わえるのも、異動があるおかげだと思えます。そして、最大の楽しみは、かつて担任した子どもたちの成長した姿が見られることです。幼稚園と小学校が併設されており、三歳児から六年生までの九年間を同じ校・園舎で過ごすため、異動後六年が経った今も、前任園に行くと三歳時に担任した子どもたちに会うことができます。

五月の徒歩遠足で

隅田川テラスを通り

佃大橋を渡って

前任園の明石幼稚園を訪ねた

園庭でドッジボールをしていたら

屋上から私を呼ぶ声

見上げると

→→→→→ TOMIKARA ひろば ←←←←←

フェンスごしに懐かしい顔がのぞいている

「降りておいでよ」

駆け降りてきたさとしくんが

「まだッみねむら救急車」やってくるの？」

と聞いてきた

「えっ？」

不意をつかれた私は

一瞬にして

あの頃へとタイムトリップ

四歳児うさぎ組

新入園児五人の中に君がいた

君は本当にユニークで楽しくて

でもハチャメチャなことばかりして

私を困らせた

当時の私は

君からのメッセージを受け止めきれなくて

「あー、また！」

と しめつ面

いつしか君は私から離れ

遠くの砂場で遊んでいたっけ

その君とのかかわりの変容を

私は省察し

区の研究奨励園として発表した

そのときの笑顔のままに

君は四年生になっていた

「みねむら救急車」が通りまーす

転んで怪我をしたり

友達とぶつかって泣いたりしている子を

私はよく背中におぶって

「ビーポービーポー」

といいながら歩いた

体をくねらせて嫌がっている子も

◆◆◆◆ TO MI KARA ひとば ◆◆◆◆

保育室に入る頃には

大勢の

ちよつとوراやましそうな野次馬に囲まれ

笑顔になる

照れて嫌がる

君をおぶつて歩いたこともあつたっけ

もつともつと

心を砕いて

準備をして

力を入れてやったこともあるはずなのに

何気なく

本当に何気なくしていたことが

何年も経つて再会したときに

一番に君の口から出てくるなんて

それほどあざやかに

君の心に残つていたなんて

保育の仕事が続けているものに与えられる

幸せなプレゼント…

幼稚園の子どもたちに混じつて

ようたるうくんや、さきちゃんや

ゆうかちゃんも

ドッジボールの仲間になり

四年生対五歳児のゲームが始まる

わざと当てられて倒れ込むパフォーマンス

思い切り投げるポーズをしながら

ふんわりと投げるやさしいボール

そのひとつひとつのしぐさが

大切に育てらせてきた年月を物語る

やがてチャイムが鳴つて

教室に帰つていく君たちを見送りながら

私の心の中にも

# トミカラひろば



◀明石幼稚園めざして隅田川テラスを歩く。  
春の陽差しが気持ちいい。

さわやかな五月の風が吹き抜けていく

幸せな幼児期の記憶は、心の奥底にしつかりと流れ続け、その人の人生を支える力になる。けれども、そこにかかわる保育者の存在自体は、おぼろげには覚えていても、そう頻繁に意識に上ることはないだろう。

目にも見えず、形もなさず、けれども確かにあったかい、一陣の風のような存在でありたいと、この仕事を続けてきた。

一方で、いらだった気持ちから出たひとことや、棘のある視線で幼い心を傷つけてしまったことを詫びたことも多々あった。

子どもたちのたくましく伸びていく力に感謝しつつ、人生の初期に出会う大人として、日々の生活の中で保育の心を実現させていきたい。

(中央区立月島第一幼稚園)